



①

八千代市郷土歴史研究会
 会長 村田一男
 事務局 八千代市勝田台 3-24-10 牧野方

八千代市民文化祭 郷土史展

テーマ「高津新田研究 イエとムラとくらし」

とき：11月22日(土)午後1時～5時 23日(日)午前9時～午後4時

ところ：勝田台文化プラザ 2階展示室

ようこそ郷土史展へ

高津新田(現八千代台)のすべて

2年にわたる高津新田の総合研究成果を昨年に引き続き発表します。

“約三百年続いた村の名前が消えた”ムラの名...それは高津新田。

およそひとつのムラのすべてを知ることは、誠にむずかしいことがわかりました。

それは、そこに住み営々と生きて来られたその繁栄と没落の変遷史が、あまりにもリアルだからでした。

でも調査で得られたことを、許される限り発表しました。

イエとイエとの関係、イエをどのように継いだか。

珍しい家相図、求心力ある諏訪神社、習俗など。そして開発を経て、今ある姿をお見せします。

どうぞご覧ください。

会長 村田 一男

お知らせ

12月23日(火・祝)12月例会

長作の歴史散歩と忘年会

集合 京成幕張駅 午後1時

JR幕張駅発長作町行きバス(千葉シーサイドバス)13:12 = 武石インター経由 13:22 ころ「旧公民館前」下車

散策コース

長胤寺～薬師寺石坂碑～薬師寺跡の長作小学校発祥碑～諏訪神社などをみて八千代台「みつる」へ。

忘年会 17:00 ころより 会費 約4000円

八千代台の「みつる」にて(要・予約)

当初の12月21日より23日に変更になりました。

初春2004年1月4日(日)

佐倉七福神巡りと史跡を訪ねて

集合 京成佐倉駅 改札口前 午後1時30分

コース

駅前～甚大寺(毘沙門天)～嶺南寺(弁財天)～宗円寺(寿老人)～松林寺(毘沙門天)～妙隆寺(大黒天)～麻賀多神社(福祿寿・恵比寿)～大聖院(大黒天・布袋尊)～京成佐倉駅(4時ごろ)

境内や道筋にある石碑 史跡も見学する予定です。

ご参加の方は必ず、12月例会までにお申し込みください。

「史談八千代」第28号が発刊!

特集 高津新田の総合研究

そのほか「東西金砂神社大祭礼見学記」を掲載
新資料・稲垣家家相図2枚(カラー刷り)を添付

1冊500円(会員には文化祭で配布、又は送付します)

取扱店・千葉県立中央博物館内ミュージアムショップ
青嵐書房・藤春書房(八千代台)大杉書店(緑ヶ丘)

会員活動紹介
『八千代市建築彫刻調査報告書』
刊行す
村田一男

今春のこと、八千代市郷土歴史研究会会員の村上昭彦・藤本涼輔両氏は、市内萱田所在の「八千代市萱田飯綱神社玉垣彫物調査報告書」を手づくり刊行した。二十四孝の話の場面を精査し、県内有数の彫刻であることをこの書で世に出した力作である。両氏はこれをさらに発展させ、市内全域の悉皆調査を実現しまとめを完成した功績にこそ賞賛したい。

この手づくり本は八千代市内の神社仏閣にあるおびただしい建築彫刻をまとめたものである。対象とした彫刻は木鼻や破風などのように建築部材を装飾したのではなく、主として建物の壁面装飾や奉納された彫刻である。それらは神社仏閣をぐるりと囲み、中身の神仏に係なく建築全体を否が応でも荘厳にして見る人を圧倒している。建築彫刻はそこがねらいなのであろう。調査に情熱を燃やした村上・藤本両氏はいう「見た人が、その彫刻から何を感じるか？何を発想するか？である。当然、人それぞれに感性の違いがあるから発想も違うであろう。要はその彫刻を見て考える、思い浮かべることそのものが大切である。」と問いかけ、このことから現代人の鑑賞眼がこの彫刻の持つ意義と価値を高め、生活に潤いをもたらすことを期待して調査に励んだ両氏の研究の姿が容易に浮かぶのである。

寺社を飾ったこれらの彫刻はムラの人たちの宝であり訪れる人たちに鑑賞されることに価値があった。ムラの人たちが彫り物を愛でる行為の積み重ねで保たれてきたもので、生活に潤いをもたらす文化遺産であり、作品発表の場という要素は少なかったと思われる。

寺社の建築彫刻はこのようにとらえ、現代社会における鑑賞の眼があってもいいのではないかと思う。とかく庶民的な建築彫刻を正面からとらえ研究する段階に至ってはいない現状にあって、一地域の確かな悉皆調査報告は鑑賞・研究の基礎資料として高く評価されるものである。今回個人研究として調査報告に情熱的に取り組んだ村上・藤本両会員の労をねぎらい、本報告が活用

されることを切に願うものである。なお、この手作り本は、両氏がパソコンでプリントし、製本は同会員の酒井正男氏の手によるという限定本である。両氏は本会用に1部寄贈されている。

10月19日(日)
茨城県古河市の史跡見学会

佐久間弘文

平成15年度八千代市民文化祭参加行事として、八千代市文化財保護の会が主催した古河市の史跡見学会は郷土史研究会員12名を含む総勢32人が秋の快晴に恵まれた勝田台北口を大型の観光バスで8時15分に出発した。

保護の会の幹事で、この行事の企画をバスの出発直前まで準備された平野寿子さんがご親族の結婚式に重なったため残念ながら参加できないとのこと。

古河までの車中は村田会長から八千代市域を含む下総・上総一帯に影響を残した古河の歴史、特に古河を本拠とした「古河公方(くぼう)」の盛衰、江戸期の古河藩主で雪の殿様「古河利位(としつら)」などについて説明を受けた。

1. 思案橋

バスが総和町に入ったところ「静御前の思案橋」という伝説を伝える橋を通過した。義経の跡を慕ってこの橋にたどり着いた静御前が、さらに奥州へ行こうか戻ろうかと悲しくも思案した橋、と牧野副会長からそのいわれが説明された(詳しくは「通信」第38号参照)。

2. 古河総合公園

開園30年にもなる美しい広大な公園のなかの御所沼・史跡「古河公方館」跡・古民家旧中山家に加え今春の72年に一度の大祭で記憶も新しい金砂郷から移築した国指定重要文化財「旧飛田家」などを見学した。

3. 日光街道古河宿道標

「左日光道 右江戸 東筑波山」などと刻された常夜燈形式の重厚な道標は古河を代表する書家で父、子、孫三人の揮毫という。市指定の有形民俗文化財である。この道標のはす向かいの今は廃業した和菓子店の中に「ときわ木」という屋号が書かれた見事な看板が掲げられていた。聞けば日光輪王寺や長谷

寺の篇額を揮毫した地元出身の書家・篆刻家の大久保翠洞(すいどう)の書とのこと。昼食は古河文学館に併設のレストラン、伊万里焼の器でイタリア料理をいただく。

4. 古河歴史博物館

午後の最初は古河市の「歴博」。学芸員氏から館内の説明に加えオランダ製「ストリートオルガン」の演奏をしていただいた。古河藩の家老鷹見泉石が蘭学に造詣が深かったことから設置されたもので、大きな音でビックリ。博物館の規模は大きく、展示物も豊富。

出口のスロープになった歩道で全員の記念撮影を行った。

5. 古河文学館

紅葉と真っ赤な小さな実がなつて心をなごませる「ハナミズキ」の並木を眺めながら文学館に入ると、開館5周年記念行事の「永井路子展」が開催中であつた。NHK大河ドラマ昭和54年の「草燃える」、平成9年の「毛利元就」の原作者で古河市名誉市民、歴史書小説に新風をもたらした直木賞作家・・・の作品と資料が豊富に紹介されていた。

6. 坂長本店

文学館を出ると檜の木や楠の木の太木に守られた市立古河第一小学校に差しかかり、レンガの赤門が歴史を感じさせる。校門前の歩道には藩主土井利位の残した「雪華図説」に記された雪の結晶が彫り込められている。

「坂長本店」は江戸初期の両替商を経て酒問屋を営む商家で創業は元和9年(1623)という古さ。その建物は払い下げられた古河城の建造物であり国登録の有形文化財となっている。現当主である14代目佐藤長之助氏の懇切な説明を受けたが、文庫蔵(質蔵)の天井には大木の梁が二重に組み合わせられた強固な造りで、安政五年九月吉日と大書されていた。

坂長本店の近辺を自由散策して午後4時に集合し帰途のバスとなったが、車中で古河を第二の故郷とする坂上さん(八千代ブッククラブ副会長)から永井路子とのかかわりなど興味ある話を聞き、6時30分無事勝田台に到着した。

「もの静かな城下町」古河の史跡見学を企画してくださった文化財保護の会の皆さん、どうも有難うございました。

三山七年祭取材メモ
時平神社地区の動き
板谷 繁

本年度の事業予定の一つとして「三山七年祭」の調査が決まり、5月の例会で八千代市内に参加するムラの準備過程の調査をすることになり、担当が決まった。

高津(蕨)
小板橋(牧野)
萱田町(森山)
大和田(板谷)

・6月12日(木)(牧野・板谷) 牧野副会長お知り合いの御山正治氏(祭礼役員)に紹介して頂き、前回までの祭礼実行委員長・大澤治一氏にお会いし、平成9年の時の全般的説明などを伺う。平成15年度の筆頭総代(祭礼実行委員長)花澤元春氏を紹介して頂き挨拶に伺う。

・6月18日(水)(森山・板谷) 萱田町筆頭総代 島田亘様にお会いして前回の様子を伺い資料をコピーさせてもらう。

・7月10日(木)(牧野・森山・板谷) 花澤氏宅へ

「三山七年祭」全般を伺い、6月29日(日)二宮神社での打ち合わせ事項と平成9年の資料コピーさせてもらう。

・8月4日(月)(森山) 島田氏のお店にご都合を伺いに行き「伺いたい事項を整理して置いてください、後日連絡します」と言われる。

・8月26日(火)(板谷) 花澤氏宅へ。資料をコピーさせてもらい、三山地区住宅地図に色を着けて6組お渡しする。

・9月2日(火)(森山・板谷) 花澤氏宅へ。8月27日(水)二宮神社での打ち合わせ事項・祭礼用品などの説明を受ける。

・9月22日(月)(牧野・板谷) 花澤氏宅へ。大祭・花流しの全般的説明を受ける。交通規制の氏子側の手伝いを依頼される。

萱田町の筆頭総代(祭礼実行委員長)が島田様より澤田滋様に交代したことを聞く。

・10月3日(金)(森山・板谷) 澤田自動車へ。全般的説明を受ける。資料を戴き、住宅地図などの資料をお渡しする。

・10月9日(木)(牧野・森山・

板谷) 小板橋・大和田・萱田町 秋季例祭見学

・10月12日(日)(板谷) 澤田自動車・大和田公会堂へ 資料受領

・10月17日(金)「大祭資料」のコピーと配布物の訂正を会員4名で手伝う。

・10月20日(月)(中島・板谷) 花澤氏宅へ。山車に貼る花代奉納者名ピラの筆耕を中島さんが引き受けることになる。

・10月23日(木)(牧野) 小板橋時平神社筆頭総代花嶋九五郎氏宅へ。資料受領。

・10月26日(日)(森山・中島・板谷) 大和田・萱田町時平神社境内掃除・七年祭の準備。筆耕の件で役員4名と打ち合わせ。

・11月1日(土)(牧野・森山・板谷・中島) 祭礼勢揃い見学。浄書した奉納者ピラを届ける。

時平神社

「三山七年祭り」の会員の動向
牧野光男

・11月2日三山大祭

本日の祭りは会員自由見学。時平神社の祭りを担当する組(3社・3人)は、萱田町の神輿の動きに同行する。

朝七時三十分の出発を見送り、市役所前に迂回して先回りして写真を撮る。

神輿は市役所から車で薬円台へ運ばれ、組立てて担がれ三山へ向かう。三ヶ所の氏子総代は揃って行列を先導し、二宮神社の金棒やお囃子に迎えられ、宿に向かう。

会員は行列と別れ、早昼をとって二宮神社に参拝し、各人自由行動で各神輿の宿の様子や神揃場を見学した。

各宿はそれぞれ特徴があったが、大和田の山車を組立てる作業は、宿の庭いっぱいに使っての作業である。お囃子衆を乗せて動かすにも、引き手の力が頼りである。他所の神社の屋台は、車に積んでの動きにくらべて、なんと大変な事かと改めて実感した。

神社前を埋め尽くした人波の中を、次々と神輿の昇殿が始まり、歓声が渦巻く中を大和田の神輿と山車がやってくる。神輿は昇殿参拝し、山車は電線をくぐりぬけ

境内に入ると、お囃子に一段と力が入る。昇殿を終わった神輿は駐車場へ向かい、車で大和田時平神社の前に戻り、神輿をもち神社に戻る。山車は解体して帰り、明日の花流しの準備に入る。



時平神社花流し

・11月3日時平神社花流し

時平神社三社にはそれぞれの動きがある。小板橋時平神社は、午前は地区内の子供野球チームのメンバーが子供神輿を担ぐ。

午後は大和田の山車と共に順路の一部を渡御し、別れて神社に戻る。

大和田時平神社は、総代が小板橋時平神社に参拝した後、午後の山車の巡行に備える。

他方では萱田町時平神社に参拝する。萱田町の神輿と屋台は午後の巡行の準備をする。この間、会員は各神社の動きと共に行動をする。

午後は、本会として初めて国道交通規制警備に協力する。(市役所入口交差点に村田会長ほか2名、下市場交差点に牧野ほか3名の計7名)規制時間解除の後、大和田会館で七年祭りの協力に対し、他の会員と共に慰労を受け各人帰宅する。

その他の活動報告

- ・7月12-13日佐原大祭見学会 20名参加 常燈寺なども拝観
- ・8月10日(日)午前 例会 市郷土博物館 18名参加
- ・9月7日(日)午前 役員会 市郷土博物館 12名参加
- ・9月14日(日)午後 例会 市郷土博物館 16名参加
- ・10月13日(月)午後 例会 勝田台七丁目公会堂 16名
- ・11月16日(日)全日 例会 市郷土博物館 19名

三山七年祭取材メモ
高津比咩神社の準備を追う
藤 由美

七年祭には八千代市内から、時平神社と並んで高津比咩神社の神輿が参加します。(高津はお姫様ということですか?)女性会員が祭典前日まで準備の調査を担当、主に藤が祭典副委員長岩井健三氏の協力を得て、調査しました。

・5月11日 未知の高津。藤が旧家らしき家を訪ねて七年祭の担当の方をお聞きし、前回委員長の江野沢隆之氏宅を訪問。調査の協力を了承いただき、まだ実行委員会の総会は開いていないとのことであったが、前回の副委員長の岩井健三氏を窓口として紹介いただいた。後日、岩井健三宅訪問、前回の詳細な記録綴などの資料をお借りする。

・7月1日 石井・那須が神輿の点検を取材。浅草の神輿店主人が立会って、今回は修理の必要がないことを確認していたとのこと。

・10月5日 藤が若衆による屋台の飾りの点検と修理・瓔珞磨きなど準備を取材。

・10月11日 藤・関和・成瀬で、若衆による高張提灯製作などを見学。三山の二宮神社・神揃場の様子を見に行った。

・10月16日 藤・佐久間で、ダンナ衆による神輿の手入れを取材。武石の三代王神社、畑の子安神社の準備状況も見学した。

・10月18日 岩井健三氏より三山大祭と高津花流しの渡御のコースとスケジュール最終案をいただく。これらは翌日の文化財保護の会主催バス見学会に参加した会員と事務局に配布し、藤の個人HPのサイトにも掲載して周知した。

・10月25日 藤がダンナ衆による注連縄張りを見学。

・11月1日 朝9時から成瀬・藤で神輿・屋台の飾りつけを見学。午後は金棒・高張の衣装合わせ、3時からの勢揃い式、神輿揉みの肩慣らしを取材した。

・11月2日 早朝の発輿式見学。

以上、ムラから見ればヨソモノの身で高津を訪ね、祭の準備過程を追いながら、高津の旧村の組織や慣わしなど多くのことを学ば

せていただき、高津の皆様感謝いたします。



三山での高津比咩神社神輿

高津比咩神社
三山の七年祭見学レポート
成瀬摩希子

11月2日 晴天

・9:15 大久保駅集合、参加は成瀬・藤・中島の3人。ヤドの岩井(ジョウグチ)さん宅まで20分徒歩。高津の神輿は到着し整列。岩井さん宅に入る

・10:45 岩井さん宅出発 お神輿の追っかけスタート

・11:40~12:30 ヤドの将司(チュウベイ)さん宅 昼食休憩 一緒にお昼のお弁当を頂く

・13:00~14:00 神揃場到着。神揃場は関係者以外立ち入り禁止といわれて成瀬は追い出され、藤だけ中で取材

・15:10 二宮神社到着。昇殿式典 こども立ち入り禁止だが、藤は警備員と押し問答して入る。

・将司さん宅へ戻る 夕食休憩 またまたお弁当を頂く。将司さん宅で準備してくださった豚汁のこれまた美味しかった事!

・17:50 将司さん宅出発 名残を惜しみながら何度も何度も神輿を揉み、道に出ても少しづつ少しづつ進む

・18:30 バス駐車場到着。ここでも何度となく神輿を突き上げ、揉み込む。三山の世話人の人たちにお礼とお別れの挨拶

・19:07 神輿車載出発。バスが出て行くまで、三山の人達は見送っていた

・帰宅 大久保駅へ向かって更に徒歩。足はくたくた。幕張へ向かう子守神社の団がお囃子を奏でながら去っていった

3日 雨が降ったり止んだり

・8:30 成瀬・藤が八千代台駅集合。バスで高津の大門入り口バ

ス停下車。神輿と一緒に第1休憩所江野澤薫さん宅へ

・9:30 江野澤薫さん宅出発

・10:00~10:40 江野澤保さん宅休憩 休憩中小雨が降る。この後は屋台にくっついて歩く

・11:30 坂に到着。子供は先に坂下の鈴木茂さん宅(ゴルフ練習場)へ向かい待機。屋台の後ろにトラックを付けブレーキにしつつ大人の手でカーブした大坂を下る。

・12:00 坂下に到着 再度子供が引いて休憩所まで

・12:20 東高津中学校横資材置場到着 屋台は路上で方向転換。神輿は資材置場に安置 お昼休み。雨がひどくなった為、子供は自宅へ戻り2時に集合の伝達

・13:00 お神輿出発 神輿について見学

・13:50~14:15 八千代プラスチック(八千代中央自動車学校横)休憩 休憩中雨が降る

・14:20 お神輿資材置場前に戻り、屋台と合流、屋台も出発

・14:40~15:40 岩井利雄さん宅前休憩 若ばち会太鼓ショー、子供はお菓子、記念品を買って解散。屋台は駐車場まで移動後終了

・15:49~16:30 岩井進さん宅休憩 既に薄暗い

・17:20~18:20 岩井進さん宅夕飯休憩 ここで神輿の四方に提灯がともる

・18:40~19:05 岩井健三さん宅 休憩

・19:40 神社前到着。

・20:30 お神輿を下ろす 御霊遷しの神事 その他式典

・21:00 お祭り終了

最後の最後、神社では古いも若きも神輿に向かって行った。金棒さんも担ぐ。この一体感と昂揚がお祭りの醍醐味。雨に邪魔されながらも、繰り返される喚声は1時間近くに及んだ。そして、最後の締めは厳かな神事と感動的な神輿返納の儀式。大きな満足と疲労の中、無事に祭礼が終了した。

最後の最後、神社では古いも若きも神輿に向かって行った。金棒さんも担ぐ。この一体感と昂揚がお祭りの醍醐味。雨に邪魔されながらも、繰り返される喚声は1時間近くに及んだ。そして、最後の締めは厳かな神事と感動的な神輿返納の儀式。大きな満足と疲労の中、無事に祭礼が終了した。

編集後記：地域と共に学んだ高津新田研究。そして共にフィーバーした三山七年祭。充実した2003年でした。

by ゆみ sawarabi-y@nifty.com